

令和元年6月28日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03417

研究課題名(和文)「混成言語」から見なおすユーラシアの諸言語 - 言語接触と言語形成の類型を探る -

研究課題名(英文) Research on Eurasian "mixed" languages with a focus on the typology of language contacts and formations

研究代表者

藤代 節 (Fujishiro, Setsu)

神戸市看護大学・看護学部・教授

研究者番号：30249940

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：ユーラシアの諸言語が系統を越えて接触を繰り返す様を「混成言語」をキーワードにとらえ直すことを試みた。消滅の危機に瀕した小言語をも含む言語接触の状況が引き起こす混成言語の実態の調査に取り組み、一方、近世あるいは中世の文献言語についても調査と分析を重ねた。ユーラシアを東西南北及び中央の5つのゾーンに区分し、研究協力者を含む12名の言語研究者等が知見を共有しつつ、ユーラシアの諸現代語あるいは文献言語研究の視点にたち、言語形成に始まる言語の生態について一定のモデルを構築する可能性を見いだすことが出来た。なおも残る少なからぬ課題については、後継の科研費研究プロジェクトで継続して取り組む。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語の混成は、言語発展のあらゆる段階で生じうる。これらは何を契機に引き起こされるのか、言語接触の結果がもたらした現代の諸言語の様相をユーラシアの広域から例を拾い、従来の言語接触研究の枠にとらわれず観察した。系統的に発展分岐するという言語のあり方よりもむしろ混成言語をキーワードに言語を見なおせば、混成言語こそが無標の言語であるという見方も出来るのではないか。

研究成果の概要(英文)：We reconsidered how languages in Eurasia have changed their linguistic properties through language contacts in the light of "mixed languages", which is a key concept of our project. After tentatively dividing Eurasia into five zones, i.e. East, West, South, North, and Central, each member was assigned to one of them according to her or his linguistic specialty, and worked on investigating the present situations of one or more mixed languages caused by language contacts in the zone. In the investigations, we actively took the cultural or social elements into account. In addition to the living languages, we collected and analyzed the data of some languages spoken in the past as well. Sharing our findings with each other, we consequently found it possible to construct an initial model of the ecological aspects which the mixed languages will show at the beginning of their new life. In our new project of Grant-in-Aid for Scientific Research, we will go on to work on the remaining issues.

研究分野：言語学

キーワード：混成言語 言語接触 言語類型 文献言語 アジアの諸言語 アルタイ諸言語 バスク語 アルメニア語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題に参加する言語研究者 11 名は、言語接触の観点から各々未記述の言語を含む現代語の野外調査・分析研究あるいは文献言語学研究に従事してきた。それぞれユーラシアの諸言語について言語接触のありようを意識しながら、個別に研究を重ねてきた。多彩なアプローチに富む言語研究者が集まり個々の研究情報を共有すれば、言語系統も多岐にわたるユーラシアの広域をカバーして言語接触を契機にした言語変容の研究につながると見込んで研究計画に着手した。「混成言語」をキーワードに言語類型、言語形成に焦点を当て、言語生態のモデル構築を目指す計画を立案した。

2. 研究の目的

本研究課題では、系統を越えた言語の接触などが誘因と考えられ生じた言語現象を持つ「混成言語」の様相について、ユーラシアの諸言語からいくつかを選び、まず多角的に観察する。さらに「混成言語」の観点から、あらためてユーラシアの諸言語に起こった言語変容をとらえ、言語の混成にはどのようなタイプ(類型)があるのか、どのようなタイプが起こりやすいのかなどについて、通言語的な考察を加える。これまで所謂「混成言語」は有標的とみなされがちであったが、むしろこれまで無標的とみなされていた、謂わば、「非混成言語」の方が有標的ではないかという立場に立つことで、これまでの言語接触・言語変容に関する研究にさらに新しい視点を提案することを目的とした。

3. 研究の方法

ユーラシアを東西南北及び中央に区分し、言語系統なども考慮して、担当者(研究協力者を含むメンバー)を配置し、まず、どのような「混成言語」がみとめられるかを見極め、その「混成性」の事例を集めた。さらに、これらの具体例について、全員で検討し、言語の混成性はどのような場合にどのように起こるのかについて、パターンを整理し、その上で、あらためて各担当地域あるいは言語群をみなおし、「混成言語」にあたる言語を更に見だし、記述することを試みた。一方、混成言語形成中の言語や現代語を離れて過去のピジンなども検討対象とした。「混成言語」という新しい視点で言語接触と形成の類型化を図り、国内外の研究者に情報提供・共有を行い、議論を進めた。ユーラシア大陸の5つのゾーン区分と担当者は、以下のとおり:

東ゾーン:大陸東部、極東:日本語・朝鮮語・漢語圏:早津、岸田(文)、川澄 西ゾーン:大陸西部:欧州、コーカサス地方:吉田、岸田(泰) 南ゾーン:大陸南部:東南アジア、南アジア:澤田、他研究協力者 北ゾーン:大陸北部:ロシア連邦域(ロシア語圏):藤代、松本 中央ゾーン:大陸中央部:中近東、中央アジア、チュルク語圏、蒙語圏:菅原、大崎、角道

4. 研究成果

3年間の研究期間中に各ゾーンにおいて多くの研究成果を出版もしくは口頭等で公表することが出来た。これらの多くは、様々な形でウェブ上でも公開されている。特に研究分担者の片山が構築・運営・管理しているウェブページ <http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/>「ユーラシア言語研究コンソーシアム」では、メンバーの研究成果としてとりまとめた冊子掲載の各論考が電子ファイルとして挙げられている。また、3年間を通して年度末には、各メンバーの研究成果発表が定期的に行われ、本研究課題である混成言語を視野に入れた研究報告が数多くなされている。本研究課題班メンバーのみでなく、より広く言語研究に携わる言語学者等との学術討議の場ともなっている。詳細は、以下に掲げるリストに詳しいが、各ゾーンの研究活動についてその一端を以下の通り掲げたい:(東ゾーン)岸田(文)は近世時期のハンゲル文書の調査研究を行い、早津は現代日本語について多角的な視点で分析を重ねる一方、国外において複数の日本語研究講演も提供した。川澄は中国における「混成言語」の定義について慎重に見なおしを重ねつつ、漢語方言の形成について精査を試みた;(西ゾーン)吉田はスペイン領バスク自治州ギプスコア県にてバスク語諸方言の調査を行い、岸田(泰)は東西アルメニア語の各々の変容を分析詳述した;(南ゾーン)澤田は、ミャンマー国ミッチーナで、ランスー語やタイ=サー語などの小言語の語彙調査や文法調査、テキスト収集などを行った;(北ゾーン)松本はネツ語の言語調査を行い、その分布域のサモエド系言語とツングース系言語との接触研究を遂行し、藤代はドルガン語の規範化以前の言語形成過程を追った;(中央ゾーン)菅原は、ペルシア語から翻訳されたチャガタイ語文献を取り上げて原文との対照をふまえた研究を行い、大崎は現代キルギス語文法研究を中心にチュルク諸言語全体から文法現象を捉えるアプローチで研究を重ねた。角道は、中国領内の小言語を含めたモンゴル系諸言語について、周辺言語との接触及び言語類型の観点から音韻、文法研究を重ねた。初年度には、Abdurishid YAKUP 氏(ウイグル語文献学)をドイツ国から招聘し共同研究を行い、3年度目には露国極北のドルガン人言語文化研究者2名(A.A. BARBOLINA 氏、N.S. KIRGIZOVA 氏)、サモエド系エネツ人伝統文化研究者1名(Z.I. BOLINA 氏)を招聘し、他の科研費プロジェクト等と国際シンポジウムを共催した。

混成言語から見なおすユーラシアの諸言語のタイトルの下に広範囲にわたる言語接触、言語形成、言語類型の視点に立って、いくつかの混成言語パターンを見い出すに至っているが、具体的なモデルの構築までは進まなかったことが反省される。残された課題の解決については、引き続き、後継の研究課題において言語使用背景をより広く取り、言語生態の中に混成言語を位置づけ、研究を進める。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計26件)

SUGAHARA Mutsumi, Review of A Turkic Medical Treatise from Islamic Central Asia: A Critical

Edition of a Seventeenth-Century Chagatay Work by Subhan Quli khan, edited, translated and annotated by Laszlo Karoly, *Turkic Languages*, 査読無, 22-1 巻, 2019, pp.143-148
 角道 正佳, モンゴル諸語の数量詞句, 言語の流形特徴対照研究会(編)言語の類型的特徴対照研究会論集(日中言語文化出版社), 査読無, 1 巻, 2019, pp.53-95
 角道 正佳, 土族語の「どこ」を表す表現, 日本モンゴル学会紀要, 査読有, 49 巻, 2019, pp.1-17
 KISHIDA Fumitaka, The Distribution of Hangeul Correspondence Documents between Japan and Korea during the Edo Period, *Comparative Japanese Studies*, 査読無, 43 巻, 2018, pp.21-38, DOI: 10.31634/cjs.2018.43.021
 早津 恵美子, 使役動詞「V-(サ)セル」の状態詞化—使役動詞の希薄化のひとつの類—, 形式語研究の現在, 査読有, 2018, pp.235-253
 庄垣内 正弘、菅原 睦、大崎 紀子、YAKUP Abdurishid、藤代 節, ストックホルム民族学博物館所蔵ウイグル文『入阿毘達磨論』注釋断片, *Contribution to the Studies of Eurasian Languages* (以下、CSEL と略す), 査読有, 20 巻, 2018, pp.1-68
http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 FUJISHIRO Setsu, A note on r and l in Dolgan and Yakut, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.95-103, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 早津 恵美子, 日本語の意志動詞・無意志動詞とその構文的な性質(研究ノート), *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.139-160, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 角道 正佳, 土族語の Conjunct/Disjunct について, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.161-177, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 川澄 哲也, On the Formative Process of the Hezhou Dialect of Chinese (原文は中国語), *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.179-190, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 岸田 泰浩, 現代アルメニアはどのような言語か—その地域的特徴—, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.227-280, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 大崎 紀子, シャミシエワ ナズグリ, キルギス語の補助動詞 kal の意味と本質 - アスペクトと共起制限をめぐる二つの疑問 -, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.345-362, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 SAWADA Hideo, The Phonology of Lhangsu, an Undescribed Northern-Burmish Language, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.381-404, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 菅原 睦, クトゥブ『ホスロウとシーリーン』導入部から - ペルシア語原作との対照 -, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.421-447, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 吉田 浩美, バスク語アスペイティア方言の「後置詞に見える形態素」と「後置詞」の区別 - アクセントの観点から -, *CSEL*, 査読有, 20 巻, 2018, pp.487-501, http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/?page_id=539
 FUJISHIRO Setsu, SONG OF MARRIAGE AND SETTING UP A HOUSE: A PROTO-DOLGAN SONG RECORDED BY K.M.RYCHKOV, *History of Languages and Linguistics. Essays in Honor of Marek Stachowski*, 査読有, 2017, pp.203-217, DOI: 10.12797/9788376388618.11
 早津 恵美子, ヲ格名詞と動詞からなる連語についての奥田靖雄氏の 2 つの論文について, 鈴木泰先生古稀記念論文集, 査読有, 2017, pp.124-140
 早津 恵美子, 『詞通路』の「自他」と現代日本語の「ヴォイス」, *国語と国文学*, 査読無, 2017, pp.3-22
 早津 恵美子, 使役文にみられる恩恵授与性, 表現研究, 106 巻, 2017, pp.7-16
 菅原 睦, チャガタイ語の読音に関するいくつかの事例, *韓国語学年報*, 査読有, 13 巻, 2017, pp.159-168
 MATSUMOTO Ryo, "It rains" in Uralic and Tungusic, *Studies in Asian Geolinguistics, ILCAA*, Tokyo University of Foreign Studies, 査読無, VIII 巻, 2017, 43-44
 岸田 文隆, 倭学訳官崔[王岡](伯玉)のハングル書簡よりみた易地行聘交渉, *韓国朝鮮文化研究*, 査読無, 16 巻, 2017, pp.25-42
 澤田 英夫, ロンウォー語の複動詞構造, *東南アジア大陸部諸言語の動詞連続*, 査読無, 2017, 162-207
 菅原 睦, ナヴァーイーにおける翻訳—『友愛のそよ風』を例に—, *西南アジア研究*, 査読有, 86 巻, 2017, pp.35-54
 早津 恵美子, カテゴリカルな意味(下) - その性質と語彙指導・文法指導 -, *東京外国語大学論集*, 査読有, 92 巻, 2016, pp.1-20
 早津 恵美子, 日本語における「ヴォイス」—原動・使役・受身—, *日中韓比較文化研究*, 査読無, 2016, pp.42-50
 [学会発表](計66件)
 菅原 睦, -GAn Turkic と -GAn 形動詞, 2018 年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会, 2019
 松本 亮, ハンティ語の音声およびその他言語学的問題について～初期調査から～, (同上)
 澤田 英夫, タイ=サー(マインター)語の音韻体系概観, (同上)
 藤代 節, 環境が変われば語彙はどう変わるか? - Porjadin P. のヤクート語辞典(1877年)と Rychkov K. のドルガン語彙 -, (同上)

吉田 浩美, 最新のフィールドワークから ~ バスク語の普及: その「量」と「質」~, (同上)
大崎 紀子, キルギス語の位置関係を表す語, (同上)
角道 正佳, ハルハモンゴル語の第二音節以下の基底閉音節短母音 - CC7VC9# について - (同上)
岸田 泰浩, アルメニア語の条件法について, (同上)
早津 恵美子, 現代日本語の使役文・受身文にみられる恩恵授与性, (同上)
岸田 文隆, 倭学訳官崔(王岡)(伯玉)とそのハングル書簡, 成均館大学東 ASIA 学術院 HK 研究所主催国際学術会議「東亜的私文書研究」(大韓民国)(招待講演), 2019
SUGAHARA Mutsumi, Orta Turkce ceviri eserler ve Orta Turkcenin gelism sureci uzerine, (イスタンブール大学文学部における講演)(招待講演), 2019
岸田 文隆, 江戸時代日朝往復ハングル文書の分布, 漢陽大学日本学国際比較研究所国際学術シンポジウム「韓国における日本研究と日本における韓国研究」(大韓民国)(招待講演), 2018
早津 恵美子, 名詞と使役動詞(V-(サ)セル)からなる連語, 国際連語論学会(日中平和友好条約締結40周年記念学術講演会)(招待講演), 2018
菅原 睦, ペルシア語から翻訳された中期チュルク語文献について, 第80回羽田記念館定例講演会(招待講演), 2018
OHSAKI Noriko, AKMATALIEVA Jakshylyk, Reduction of volitionality and auxiliary verbs in Kyrgyz, 19th International Conference on Turkish Linguistics, 2018
角道 正佳, ロシア語から日本語に借用された語におけるロシア語の力点と日本語の長母音の関係 - 非対称性 -, 近畿音声言語研究会, 2018
角道 正佳, モンゴル諸語の「生まれる」を表す表現, 日本モンゴル学会, 2018
松本 亮, シベリア少数民族語の”語学”教科書の現状と傾向について, 日本シベリア学会, 2018
藤代 節, ロシア極北タイムル州の先住民族言語使用状況レポート, 2017年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会, 2018
角道 正佳, 保安語同仁方言の阻害音 - Fried (2010)の四項対立について -, (同上)
吉田 浩美, 最近のフィールドノートから - スペイン領バスク自治州のバスク語に関する報告 -, (同上)
菅原 睦, 中期チュルク語の補助動詞について, (同上)
澤田 英夫, ロンウォー語の親族名称, (同上)
松本 亮, ネnetz語の自動詞と他動詞の関係について, (同上)
大崎 紀子, アルタイ諸言語における補助動詞「みる」についての覚書, (同上)
岸田 泰浩, 現代アルメニア語の動詞体系の整理に向けて, (同上)
SAWADA Hideo, Comparing a few grammatical aspects of Northern Burmish Languages, The 51th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics, 2018
菅原 睦, 中期チュルク語翻訳文献とその背景, 東京外国語大学語学研究所定例研究会, 2018
角道 正佳, Preaspiration - 特に保安語同仁方言について -, 近畿音声言語研究会, 2018
角道 正佳, 旧約聖書 創世記第1章 - モンゴル語訳 -, 第2回「ナル」表現研究会「ナル」表現をめぐる通言語的研究 - 旧約聖書に見られる出来・存在・変化の表現を中心に -, 2018
OHSAKI Noriko, AKMATALIEVA Jakshylyk, Volitionality and auxiliary verbs in Kyrgyz: the case of kor- and jiber-, The Conference “Current Topics in Turkic Linguistics”, 2018
FUJISHIRO Setsu, A General Survey of Yakuts/Dolgans and their Language(s), 中国中央民族大学(北京)(招待講演), 2017
藤代 節, 1世紀前の北方言語資料を如何に利用すべきか - K.M.ルチコフ編纂トゥルハンスク北部域のドルガン語-ロシア語カード辞書をめぐって -, 中国中央民族大学(北京)(招待講演), 2017
ФУДЗИСИРО Сэцу(FUJISHIRO Setsu), Андрей Александрович Попов как связь между исследователями предшествующих и текущего веков по долгановедению (A.A. ポポフ - 過去と現在を繋ぐドルガン研究の要), Международная научно-практическая конференция «Андрей Александрович Попов - Великий этнограф Сибири и Севера», посвящённая 115-летию со дня его рождения, 2017
早津 恵美子, 江戸期の国語研究における「自他」と現代日本語の「ヴォイス」, ドイツ文法理論研究会 2017年春季研究発表会(招待講演), 2017
早津 恵美子, シテモラウ文・使役文・受身文, 表現学会第54回表現学会全国大会(招待講演), 2017
早津 恵美子, 使役と causative (verb), KLS 関西言語学会第42回大会(招待講演), 2017
早津 恵美子, 単語の意味と文法的な性質 - 語彙的な意味・文法的な意味・カテゴリカルな意味, リヴィウ大学特別講義(招待講演), 2017
SAWADA Hideo, Two undescribed dialects of Northern Burmish sub-branch: Gyanno' and Tho'lhng, The 50th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics, 2017
澤田 英夫, ビルマ語群北下位語群の未記述言語, チベット = ビルマ言語学研究会第41回会合, 2017
SAWADA Hideo, Examining grammaticalization in Lhaovo, Workshop on Grammaticalization & Language Contact in Asia and Beyond, Nanyang Technological University, Singapore, 2017

- SAWADA Hideo, Northern Burmish languages and Burmese, Workshop 'Language in Early Burma', SOAS, University of London (招待講演), 2017
- SAWADA Hideo, Overview of multi-verb constructions of Standard Lhaovo, Linguistics Seminar, The University of Melbourne, 2017
- KISHIDA Yasuhiro, A typological approach to the development of nominative marker in Japanese - Why not zero-ending and why occasionally employed for the object -, 「中国少数民族語言的信息結構研究」会合(招待講演)2017
- 角道 正佳, トルコ語の接辞の不規則なアクセントの処理 - 最適性理論による分析及び規則と派生による記述 -, 近畿音声言語研究会, 2017
- 角道 正佳, 土族語及びモンゴル語派言語の数量詞, 言語の類型的特徴をとらえる対照研究会第4回公開発表会・兼「数量詞の構文的性格」を考える国際シンポジウム, 2017
- 松本 亮, 'It rains' in Uralic and Tungusic, 2017年度第2回「アジア地理言語学研究」共同利用・共同研究課題研究会, 2017
- 早津 恵美子, 日本語動詞の分類をめぐって - 他動詞・自動詞と意志動詞・無意志動詞 -, 2016年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会, 2017
- 澤田 英夫, ビルマ語群北部下位語群ギャンノツ土語についての予備的報告, (同上)
- 吉田 浩美, バスク語アスペイティア方言の名詞のアクセント(中間報告), (同上)
- 角道 正佳, 河湟語及び達斡爾語の従属節主語表示, (同上)
- 菅原 睦, チュルク語詩における母音の長さと言律システム, (同上)
- 大崎 紀子, キルギス語の補助動詞 kal-をめぐるとの疑問, (同上)
- 松本 亮, ネネツ語の声門閉鎖音の音声的实现について, (同上)
- 藤代 節, 再び r と l について: 北方の言語とロシア語, (同上)
- 川澄 哲也, 漢語大通方言と“Negotiation”, (同上)
- 岸田 泰浩, 分格と能格から見た日本語のガ格, (同上)
- 澤田 英夫, ロンウォー語の直示的移動動詞, 慶應義塾大学言語文化研究所公開シンポジウム「移動動詞表現の対照 - 東南アジア諸言語の「行く・来る」を中心に -, 2017
- SUGAHARA Mutsumi, Development of the metrical system in the Turkic poetry (XI - XV centuries), 新疆大学(講演)(招待講演), 2017
- SUGAHARA Mutsumi, 『クタドゥグ・ビリグ』に関する最近の研究と今後の課題について, 新疆大学民族文献研究センター(講演)(招待講演), 2017
- 早津 恵美子, 言語運用能力向上のための日本語教育 - 文法指導における単語の意味, 韓国日本語日文学会2016年夏季国際学術大会シンポジウム(韓国大田市ハンパツ大学), 2016
- 早津 恵美子, 日本語の「V-(サ)セル」文の使役構造的性と他動構造的性, 日本フランス語学会2016年談話会, 2016
- SAWADA Hideo, Multi-verb constructions of Standard Lhaovo, The 49th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics, 2016
- 菅原 睦, トルコ語のテンス・アスペクト・モダリティー言語研究と語学教育の間 -, 第2回朝鮮語及び周辺諸言語研究会, 2016
- 角道 正佳, モンゴル語ハルハ方言の正書法スタイルにおける第二音節以下の基底短母音, 近畿音声言語研究会, 2016
- 吉田 浩美, バスク語アスペイティア方言の「後置詞に見える形態素」と「後置詞」の区別, 日本言語学会 第152回大会, 2016
- 松本 亮, ツングースとサモエードの民族接触の可能性, 日本シベリア学会, 2016
- [図書](計8件)
- 松原 孝俊・岸田 文隆, 九州大学出版会, 朝鮮通信使易地聘礼交渉の舞台裏—対馬宗家文庫ハングル書簡から読み解く, 2018, ii, 448p, 図版 [7] p
- 藤代 節(分担執筆), 勉誠社, 永山ゆかり、吉田睦・編 アジアとしてのシベリア(「シベリア先住民文学を紹介する—極北のドルガン詩人オグド・アクショノワの作品より—」), 2018, (執筆部分) pp.175-192
- 松本 亮(分担執筆), 同上書, (「東西シベリアの言語の境界 —ツングースとサモエードの言語から見る民族接触の可能性—」), 2018, (執筆部分) pp.146-157
- YOSHIDA Hiromi, Katakarak (IruNea), Nagusia kanpoan bizi da / 1928ko martxoaren 15a (小林多喜二著『不在地主』『一九二八年三月十五日』のバスク語訳), 2017, 275p.
- YOSHIDA Hiromi, Susa (Zarautz), Chuya Nakahara (中原中也の詩のアンソロジーのバスク語訳), 2017, 62p.
- 早津 恵美子, ひつじ書房, 現代日本語の使役文, 2016, 464p.
- 菅原 睦(分担執筆), 明石書店, テュルクを知るための61章(クタドゥグ・ビリグ、チュルク諸語の分類、カーシュガリーの「チュルク諸語集」, ロシア), 2016, pp.77-88, pp. 82-86, pp.87-91, pp.310-314
- 吉田 浩美, 白水社, ニューエクスプレス バスク語, 2016, 158p.
- [その他]
- ・研究課題情報ページ(ユーラシア言語研究コンソーシアム) <http://el.kobe-ccn.ac.jp/csel/>
 - ・国際シンポジウム開催(他プロジェクトと共催)International Symposium on Northern Languages

and Cultures 2019 「北方の言語と文化に関するシンポジウム 2019 シベリアの言語と文化は今」
(2019年2月16-17日・北海道大学スラブユーラシア研究センターにて)

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：早津 恵美子

ローマ字氏名：(HAYATSU, Emiko)

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院国際日本学研究院

職名：教授

研究者番号(8桁)：60228608

研究分担者氏名：岸田 文隆

ローマ字氏名：(KISHIDA, Fumitaka)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：言語文化研究科

職名：教授

研究者番号(8桁)：30251870

研究分担者氏名：澤田 英夫

ローマ字氏名：(SAWADA, Hideo)

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：アジア・アフリカ言語文化研究所

職名：教授

研究者番号(8桁)：60282779

研究分担者氏名：岸田 泰浩

ローマ字氏名：(KISHIDA, Yasuhiro)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：日本語日本文化教育センター

職名：教授

研究者番号(8桁)：40273742

研究分担者氏名：菅原 睦

ローマ字氏名：(SUGAHARA, Mutsumi)

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院総合国際学研究院

職名：教授

研究者番号(8桁)：50272612

研究分担者氏名：片山 修

ローマ字氏名：(KATAYAMA, Osamu)

所属研究機関名：神戸市看護大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：20295778

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：角道 正佳

ローマ字氏名：(KAKUDO, Masayoshi)

所属・研究者番号(8桁)：大阪大学・30144538

研究協力者氏名：大崎 紀子

ローマ字氏名：(OHSAKI, Noriko)

所属・研究者番号(8桁)：京都大学・90419458

研究協力者氏名：吉田 浩美

ローマ字氏名：(YOSHIDA, Hiromi)

所属・研究者番号(8桁)：神戸市外国語大学・70323558

研究協力者氏名：松本 亮

ローマ字氏名：(MATSUMOTO, Ryo)

所属・研究者番号(8桁)：神戸山手大学・30745857

研究協力者氏名：川澄 哲也

ローマ字氏名：(KAWASUMI, Tetsuya)

所属・研究者番号(8桁)：松山大学・30590252